

第2回 印西市障がい者プラン策定委員会 会議録（要旨）

【日時】

令和8年7月16日（木）10:00～11:20

【場所】

印西市役所 大会議室

【出席者】

○委員

山口委員、劔持委員、齋藤委員、武藤委員、山田委員、萱場委員、岡本委員、近藤委員、橋本委員、塚田委員

（欠席）松信委員、篠宮委員、浅井委員、佐藤委員、杉山委員

○事務局

障がい福祉課

【次第】

1. 開会
2. 議題
 - （1）会議録署名委員の選出
 - （2）印西市障がい者プラン骨子案について
3. 閉会

【配布資料】

障がい者プラン骨子案

- ①総論
- ②障害者基本計画
- ③障害福祉計画・障害児福祉計画
- ④資料編
- ⑤障害福祉サービス事業所アンケート 調査結果
- ⑥就労系サービス利用者アンケート 調査結果

欠席委員からの意見

【議事要旨】

1. 開会

事務局：

ただいまから、第2回印西市障がい者プラン策定委員会を開会いたします。

本日は委員15名のうち10名のご出席をいただいておりますので、設置要綱第6条第2項の規定により過半数に達しておりますので、会議は成立となります。では続きまして、議題に入らせていただきます。

す。設置要綱第6条第1項の規定により、委員長が議長となることになっております。塚田委員長、よろしくお願いいたします。

2. 議題

(1) 会議録署名委員の選出

委員長：

皆さん、こんにちは。しばらくの間、議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。第1回は、確かアンケートについていろいろ皆さんからご意見いただいて、実際もうアンケートの方は配布されて、集計されてというような状況になっていると思います。今回は総論について、皆さんの意見をお伺いできたという形になっておりますので、短い時間ですけれども、スムーズに議事が進むよう、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、まず議題(1)の会議録署名委員の選出についてですが、会議及び会議録が公開となります。会議録の確定に関しましては、本委員会では審議会等が指名した委員による承認となっておりますので、前回に引き続き、名簿順に2名の委員さんに署名委員をお願いしたいと思います。今回は齋藤委員と武藤委員をお願いいたします。皆さんよろしいでしょうか。異議なしの声がありましたので、齋藤委員と武藤委員に署名の方よろしくお願いいたします。次に、議題(2)印西市障害者プラン骨子案について、事務局の方からご説明よろしくお願いいたします。

(2) 印西市障がい者プラン骨子案について

(事務局より骨子案について説明)

委員長：

ご説明ありがとうございました。今回の委員会では、現状分析から基本理念、基本目標、施策体系に関する流れみたいな大枠のところをご検討ということと、あとは総論についての中身ができたらいかなというような話でした。事務局、各論についてはまた次回以降で、何回くらい議論ができますでしょうか。

事務局：

各論については、2回ぐらいは後で議論ができると思います。次回以降ですね。

委員長：

ありがとうございます。そうしますと、今回は総論のところ、後は各施策体系の流れみたいなところがおかしくないかみたいなところの確認をしていただいて、なので各論についてはまた次回以降2回議論する場があるということです。何か具体的なところというのは、次回以降のところでお話、議論が進められたらいいかなというような流れで、今回できたらいいかなと思っております。

私、ちょっと見た感じだと、今回コンサルが入っていないという中で、すごく事務局の方が丁寧になっているのでしょうか。住民向けのアンケート、プラス事業所向けのアンケートの分析をしっかりとっていただいておりますし、あとは視点のところというと、7ページに障がいをお持ちの方を取り巻く環境みたいなところで、手帳をお持ちの方だけではなくて、地域住民の方や支援者とかご家族とか、

そのあたりを広く網羅して、障がいをお持ちの方の生活というのを支えているんだなんていう視点であつたりとか、後は 16 ページのところ、他市のところなんかを比較検討して、分析をしっかりとされている点は非常に評価できるかなというのは、ちょっと見て取れました。

私が最初に言ってしまいましたが、皆さん、何か思ったところ、感じたところ、何でもいいのでご意見いただけたらと思います。A 委員お願いいたします。

A 委員：

今コンサルが入っていないということを聞いて、なるほどと思いました。大抵のところはコンサルが入っていて、パターン化されたようなプランがどこを見ても出てきて、それに比べ、この印西には魂が入っていると思いました。なので、副市長がリクエストしてきたものがちゃんと出されていて、ああ、こういう状況なんだっていうことと、広く一般の市民も障がい福祉と関わってるんですよというような、そういう共生社会みたいなものをちゃんと打ち出していくというところもそうですし、事業所が少ないということがやっぱり意外ですし、白井市の支援協とか行っていますと、印西の方が多く来ているみたいな話を聞くので、印西がなぜ事業所が増えないのかと思うと、家賃が高いのかなとか、そういう事業所を作りにくい何か理由があるのかなとか、なんか八街なんて増えすぎてしまって、総量規制をした方がいいんじゃないかぐらいの、かなり お金をそこが圧迫しているみたいな課題が出てくるくらいなので、反対なんだなと思いました。私もそんなにすごく読み込んだわけではないんですが、パラッと見ただけで印西の現状がよくわかる内容になっていたと思いました。感想です。

委員長：

ありがとうございました。心強いお言葉、ありがとうございます。ほかに、はい、お願いいたします。

B 委員：

専門的な意見が出る前に言っちゃおうかなと思います。作成ありがとうございました。私も総論 7 ページのところ、市民代表として参加していて、市の人口の 20%が 当事者とその家族であると考えられますみたいな一文が入っていると、すごく身近なテーマなんだなっていうふうに捉えることができるので、そこはすごく私のような一市民でも当事者として捉えやすい表現でとてもいいなと思いました。

そこからじゃあ将来とか 20%に自分が当てはまるっていう風になった時に、障がい福祉との関わり方の例みたいなものを書いてくださっている、この上の図の四角の中に書いてくださっているようなものをさらに一歩進めて、じゃあ自分もうちょっと能動的に関わってみようかな、みたいに思った時に、どういう方法があるのかみたいなところを知りたいなというふうにも思いましたので、同じように感じてくださる方へのメッセージというのが総論でなくても入るといいのかなと思いました。

後は、同じく 16 ページだったり、近隣の市との比較が入っていることで、自分たちの市の立ち位置だったり理解しやすく、これを見てシンプルにあの感じたのは、なぜ今この少ない状況になっているのかっていうところが気になりまして。急激に人が増えたからなのか、担ってくれる方がいない、進出しにくい理由があるのかみたいなところは、ぜひ見解があればお聞きしたいですし、A 委員のおっしゃっていたように、他の市、近隣の市で余っているような状況があるのであれば、そこと提携して、隣の市に行っても同じように使えるみたいなことがあれば、印西市も人口がずっと増え続けて、

子どもがずっとい続けるかはわからない中で、新しく施設を建てるよりも、早くサービスを提供できるんじゃないかなというふうに思ったりしました。本当にアイデアベースなので、できないはわからないですが。以上です。

議長：

はい、ありがとうございました。そのあたり、C委員とか、 実際、事業所を運営されているお立場になりますので、よろしく願いいたします。

C委員：

そうですね、今回ののは本当にコンサルが入ってないだけあって、本当に心がこもって、いい冊子だなと思って、私も何度か読みました。読み込むまではいけないんですけども、私が一番気になったのは、私も 53 歳になる障がい者の娘がいます。その頃からずっと障がいのある子と同居している親が高齢化し、家庭内でのサポートが難しくなるケースが増えていると予想されることから、親亡き後を見据えた様々な支援体制の構築が求められるという言葉がずっと 30 年間抜けていないような気がする。いつもいつも親亡き後、親亡き後ってという言葉がずっときて、うちの娘は 53 歳になって、娘はグループホームに入ってますけど、またさらに今度は年を取ったらどうしようかなっていう、日中一時支援型のようなものも考えていかなきゃないだろうなっていうことを思っています。

例えば市の方で、障がいを持った利用者さんっていうのを把握していると思うんですね。こういうのが足りないよとか、市の立場の方から、そういう情報提供をいただきたい。今年は何人、例えば就継Bには必要だよとか、生活介護がどのぐらい必要だよとか、そういうのが何年後かまでわかっていれば、こちらの事業者も それなりに対応できると思います。

それから、ちょっと飛ぶんですけども、アンケートの方にも書いてあったんですけど、やっぱりどうしても事業者は利用者がいないとお金も入ってこないし、それから今は本当に給料の方で、物価が高騰しまして、給料を圧迫しています。本当のことを言ってお金はありません。なので、せめて行政の方で建物を建てていただいたり、じゃなかったら安い家賃で貸してくださるところを探してくだされば、あと何人 このくらいの人を見てくれないかっていう具体的なお話があれば、私はやるんではないかなと思います。はい、以上です。

議長：

はい、ありがとうございました。事業を行う上で、もし事業所を増やすというふうになってくるのであれば、先が見えるというか。障がいをお持ちの方が、今後どのぐらいこの印西市で生活して、どんなサービスが必要でというところが、中長期的にわかれば事業運営なんかもやっていけるのではないかなというようなご意見だったかなと思います。後は資金面でのバックアップもしていただかないかという、資金運営面の補助みたいなのところも含めて検討できたらいいんじゃないかなというようなお話でした。このあたりは各論の方でお話が煮詰められるかなと思いますので、とても大切なご意見だと思いますので、また次回以降の各論でぜひご議論したいなと思っております。

自立支援協議会という障がい福祉の事業者さんとかが集まる会議が別であって、先日協議会が行われて、その中で現行の計画の進捗みたいな確認がされました。そこでもやはり人材不足はどうするんだとか、あとは 重度の障がいをお持ちの方の受け入れがどうなんだとか、福祉避難所の話になったりとか、あと学童保育とかっていうような話もいろいろ広がったんですけど、数値目標だけではなかなか見えな

い部分をどういうふうに具体的に考えていくのかっていうご意見があったりとか、後は、その中では事業所は少ないんだけども増えていってるっていうところで、事業所は少しずつ増えてはいるんだけど、じゃあ必要な方への支援が、さっき言った重度の障がいをお持ちの方とかっていう方への支援が増えてはいるけれども、まだまだ行き届いていない、数値では見えない課題もたくさんあるよね、みたいな。ご意見がありましたよね。そのあたりも含めて、D委員は自立支援協議会の会長でもありますので、もし、そのあたりも含めてご発言もしございましたら、よろしくお願いいたします。

D委員：

今日は全体の構成を検討ということだったんですが、先ほどA委員の方からも、やっぱり印西市は事業所が少ないっていうお話がありましたけれども、こちらのアンケートの方にも書いてあるように、やっぱり印西市って建てる土地が少ないんですよ。それから、借りるお部屋とか家も探せばあるんでしょうけど、探す手立てがない。もし事業所を増やしましょうという大きな方針ができたとしたら、そのためにどうするかっていうことを、こういう会議だとか、あるいは別に作っても結構なので、みんなの知恵を出し合って、方向性を決めていくようなシステムにしていだけるといいなと思います。

こういうプラン策定委員会って、結構何回も出ていますが、先ほどもC委員が言ったように、30年変わらない文言がありますみたいなね。そういうことが、全部がね、そんなすぐ進みはしないので、そういうこともあると思うんですが、できるところはどんどん進めていかれるように、いろんな人の知恵を借りる場所を作ってやっていていただきたいなと思います。福祉課さんは大変ですが、よろしくお願いいたします。

議長：

はい、ありがとうございます。そうですね、今のあたりなんか、各論なんかで話し合える問題かなと思います。A委員は、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの圏域の代表の方であってですね。先ほどちょっと住まいの場、住まいというか事業所をやる場所が印西市ではなくて、みたいなのところのお話がD委員の方からありましたけど、精神障がいをお持ちの方の住まいの場であったりとか、そういうのもやはり、この委員会の初回、第1回目でもグループホームのマイナスイメージみたいな話もあったと思うんですが、そのあたりも含めて、精神障がいをお持ちの方の福祉事業の現状とか、情報提供も含めてお願いします。

A委員

はい。印旛圏域の精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムのコーディネーターを県から委託を受けて行っておりますが、精神障がい者の方が入院していて、地域移行して退院する時って、もう病院側からグループホームとセットで考えられていて、病院側が一人暮らしをさせるのはまだまだ不安だ、グループホームなら退院してもいいよ、というふうに主治医がOKを出すことが多いんですね。もしくは、ご家族がいらっしゃって家に帰るといふのであれば、家族がOKすればいいよ、というところなんですけど、本人が、一人暮らしがしたいと、そんな共同生活なんてしたくないんだ、一人でのんびり暮らしたいんだという場合の支援というのがまだまだ足りないという状況ですね。

グループホームは各地にいっぱい立っているんで、印西ではまだ少ないのかもしれないですけども、結構選び放題、住むところさえ選ばなければという現状にはなっていますが、ただ玉石混交といえますか、とてもよく見てくださるところと、ただ屋根貸しているだけのところとすごく差があるので、

そこはもう相談支援専門員とか、そういう支援者が、そのグループホームはどうか、この人に合うかということをよく把握した上でマッチングしないと、またすぐ再入院してしまうというような事態がよく起きております。

ですので、地域で暮らすためには、例えばヘルパーさんであったり、アパートを貸してくれる大家さんとか、不動産会社なんかが精神障がい者の方を受け入れてくださる。そのためには、精神の方がポンと行って受けてもらうというよりも、こういう支援チームがついておりますと。私たちが何かあったら駆けつけます、対応しますのということです。じゃあそれなら住んでもいいですよみたいな、そういうチームを作っていって、まちづくりをしていくというようなことが必要で、そういう地域を作っていくというのを、じわじわと時間をかけてやっているのが、「にも包括」って簡単にまとめていっちゃうんですけど、地域包括ケアシステムになります。ですので、こういう計画にちゃんと精神障がい者のことを載せていただくというのはとても重要です。ぜひこの後の各論でも載せていただければと思います。あと、すみません、どうやって読むのかわからないところがありまして、16ページの事業所数のところなんです。私がわからないだけかもしれないんですが、例えば、1番目の居住系成田市5.5の斜線の横の47者、者ってこれは何ですか。

議長：

はい、ありがとうございます。じゃあ、事務局の方からお願いいたします。

事務局：

はい、47者の者なんです。事業所数ですね。47カ所という意味になります。

A委員：

事業所数が47カ所あって、5.5というのは、これは何ですか。

事務局：

はい、5.5というのが人口1万人当たりの事業所数。ということですね。

A委員：

はい、わかりました。ありがとうございます。

議長：

ありがとうございます。ご質問もありがとうございました。もう少しちょっと表記の部分なんか工夫できるとより分かりやすくなるのかなと思いますので、もし可能であればちょっと訂正の方よろしくお願いいたします。A委員もありがとうございました。議長自ら脱線をさせてしまいまして、先ほどから「総論を」なんて言っていたのに、各論の方に自ら指名してしまいました。ありがとうございました。はい、他に何か、はい、B委員お願いいたします。

B委員：

すみません、同じ16ページの図の1万人当たりの事業所数としての目標値とか、この数字だと最適みたいなものはあるのでしょうか。質問です。

議長：

はい、ありがとうございます。ご質問でした。目標値みたいな、人口割みたいなものがあるんですかね。

事務局：

目標値というのは特にあるわけではないんですけれども、成田、佐倉、白井、我孫子、その4つの市を平均して、そうですね、人口1万人当たりの事業所数なんかを示してあるので、4市の平均というのは1つの目安にはなるのかなと、比較の目安にはなるのかなと考えています。

議長：

はい、ありがとうございます。一つの比較する材料としてというようなお話だったと思います。近隣市との比較ができて、非常にわかりやすいなと思っています。他にどうですか。E委員、お願いいたします。

E委員：

皆さんのご意見と重なってしまう部分もあるかもしれませんが、計画全体を通してですね、一般市民の人にもわかりやすいというような印象でいます。よくできているなというところです。あと皆さんもですね、16ページのことで結構ご意見あったんですが、先ほどA委員からも、印西市は家賃が高いとか、D委員からも探す手立てがないというご意見ありましたけれども、この現状、近隣4市と比べて、ちょっと低いという数字が出ている原因っていうのは、事務局としてどのように認識しているのかなっていうのが聞きたかったのと、その原因が分かれば、今後の対策とか施策とか、各論の方にそういうのが反映できるのかなというように考えていましたので、そのあたりを分かれば教えていただきたいというのが一つと、あと現状でグループホームなんか多分、現計画の定員数なんかは上回っていると思います。今後、障害福祉計画の方に数値目標が出る時に、こういう近隣の状況も踏まえて数値を設定されるのかということをお聞きしたいなというところです。

議長：

ありがとうございます。先ほどから話に上がっている印西市がどうも事業所が少ないというところの原因みたいなのがなんとなく把握できていけば、各論に向けての具体的な、より具体的な各論にできるんじゃないかというようなご意見が一つと、あとは福祉計画の数値目標のところですかね、多分だいたい人口割で数値目標というのは出しているのが多いのかなと思うんですけれども、そのあたり人口割、多分、県の方からそういうものがあるんですかね。ですけど、近隣のところも含めて、数値目標なんかも参考にしてみたらどうかというようなご意見でした。2点目のところはご意見ということでよろしいですかね。じゃあ1点目のところ、もし分かれば、事務局、お願いいたします。

事務局：

事業所数が少ないというところで、その原因についてなんですけれども、確たる原因というのは特定できているわけではないんですけれども、委員の皆様がおっしゃられた、やはり場所が少ないというのが一つあるというのと、また人口が増えてきたというところがあるのかなと考えています。今まで事業所数については、近隣市の比較というものを、これまでちゃんとやったことがなくて、今回初めてこ

ういった形で事務局としても出してみても、少なさにかなり愕然としたところでもあります。この辺については、今後やはり検討が必要だなと考えています。

E委員からありました障害福祉計画の数値についてなんですけれども、基本的にはサービスの利用者の伸びの推移を踏まえて、今後3年間の目標値、計画値を設定していく形となるんですけれども、やはりその事業所数が印西市が少ないというのもあるので、その潜在的なニーズというものの考慮していきなさいいけないのかなというのがありますので、やはりそういった意味では、数値目標を作る上でも、近隣市の人口あたりの事業所数なんかも踏まえて設定していく必要があるかなとは考えています。以上です。

議長：

はい、ありがとうございます。F委員、お願いいたします。

F委員：

はい、すみません、ありがとうございます。ごめんなさい、私、こういう障がい者施策に関しては、本当に素人なので、申し訳ないですが、笑ってくださっても結構です。実は私、もう何十年か前に東京都から印西市に引っ越してきました。その時からもう私は聴覚障がい者です。それで障害者手帳をこちらの福祉課で住所変更してもらって、いろいろな手続きをした時に一言言われたんです。「ここは印西市です。東京都とは比べないでください」って。これはなんだろうと思ったんです。実際に住んでみてわかりました。はっきり申し上げて、東京都はもちろん予算多いです。ですからすごくはっきり言って障がい者はすごく楽なんです。こうしていただきたい、ああしていただきたい、この補助金がこうなったからこうしていただきたいって言ったらはい、わかりましたってスムーズに行くんです。ところが予算の関係っていうのは私も十分わかります。その頃は本当に人口少なくて予算が少なかったんです。ですから、これはダメです、これはダメですっていう感じだったんですね。

それで、今この策定委員会に参加させていただいて、これ見ました。ちょっとショックなんです。近隣と比べるだけではないと思うんです。住んでいる人は日本全国どこにでもいます。障がい者はどこでもいます。特に印西市は人口が急激に増えております。ですから、それに伴って障がい者の数も当然増えるはずなんです。にもかかわらず、何十年か前の施策をそのままぶつけてるっていう私は今印象なんです。今はデータセンターができています。いろんなところに税収が入っています。お話を聞くと、印西市の予算は浦安市の予算とほぼ同じだというお話を聞いています。それで結局問題はその予算の使い方だと思うんです。障がい者の方にばかり予算くださいとは言いません。でも今ちょっとこう30年間、ずっと今まで同じだとね、お話があって、私もすごく残念だな、印西市としてこれだけの素晴らしい施策をしましょうとおっしゃるのであれば、予算も振り分けて。グループホーム数が少ないとおっしゃってる、それで土地もない、でも、もしかしたらちょっと予算を増やしたら探しやすくなることもあるんじゃないでしょうか。で、私本当に素人なのでごめんなさい。そんなことないわよっていう、もちろん意見も元にあります。でも、ちょっとね、印西市のこの福祉が寂しいかなって思ったんです。成田市の方の精神科のグループホームができたりとかあるけど、印西はないですね。あるんでしょうか。遠いところも比べると、他と比べてはいけないんですけど、やっぱり比べざるを得ない。ここも事業者数は近隣だけではなくて、正直に言って東京都も入れてください。私、それで東京の現状っていうのもわかるじゃないですか。この近隣だけだったら皆さんやっぱりこんなものなんです。でも東京都の江東区とか港区っていうのはもちろん予算があります。だからもうちょっと多いです。でも人口割に

してみたらそれは正直に出ると思うんです。本当に印西市の中でもうちょっと住みやすい街についておっしゃるのであるならば、やっぱりこういうのをここだけの近隣だけで比べないで、日本全国として、レベルをちょっと広げて見てみませんかというのが、私の素人の考えなんです。ごめんなさい。ですからそれに対してそんな甘いもんじゃないよとおっしゃる方も多いだろうと思いますが、これは私の一障がい者の意見として、ちょっとお話しさせていただきました。すみません。

議長：

はい、ありがとうございます。印西市は こんな印旛圏域のレベルではなく、日本全国レベルなんだというような心強い言葉だったかなと思います。F委員は市民代表として、市民目線でのご発言、また障がい当事者としてのご発言ということで、すごく貴重なご意見だったかなというように思います。このあたり、ご意見としてどこまで反映できるかあれですけど、事務局の方で検討していただきたいということと、あとは今の熱い思いをぜひ各論のところですね、こんなことがどうなったみたいなのをぜひまた議論できたらいいかなというように思いますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございます。D委員、お願いいたします。

D委員：

ちょっと私が疑問に思うのは、目次のところで、2で「印西市の障がい福祉を取り巻く現状と課題」という形で書いてあるんですけど、「現状と課題」という題になっているんですよね。現状はとてもよくわかりました。わかりましたが、課題はどれなのかなと思って、これが課題ですみたいなのはまだまだあれなのかなっていうのはちょっと疑問なんですけど、今現状を見て事業者が少ないっていうのは課題なんだろうなとは思いましたが、そういう表記はないじゃないですかね。だからこの次はそういう課題がしっかりこう出てくるのかな。先ほどE委員も言われたように課題がなんだかわからないと何を検討していけばいいのかっていうのがなんか漠然としちゃうので、この次出るときにはもうちょっと印西市の課題は何ですっていうようなものが出てくるといいなと思います。それこそね、印西市はデータセンター誘致してますので、お金は結構あるんです。議員じゃないですが、お金はあると思います。なので、そのお金をね、どう使うかっていうところだと本当に私も思います。なので、次回になるかわかんないですけど、もうちょっと課題を精査していただければと思います。

議長：

はい、ありがとうございます。このあたりは事務局お願いいたします。

事務局：

課題ですけれども、22ページから24ページにかけて、一応その現状と課題という形でまとめてある形となっています。そのあたりをご確認いただければと思います。

議長：

はい、ありがとうございます。今、事務局の方から大きな課題としています。22ページから記載があるということで、そのあたりも少し確認していただいて、次回以降の委員会の方に臨んでいただけたらいいかなというふうに思います。

D委員：

もちろんこれは課題なんだろうと思うんですけど、プラスできるんですか。変更できるんですか。

議長：

はい、課題をここにまとめたけれども、この課題自体をもうちょっとプラスしたりとか、変更したりすることはできるんですかというようなご質問です。じゃあ、事務局お願いします。

事務局：

はい。もちろん変更はできますので、ぜひ、どのあたりを増やしたいですとか、そのあたり、具体的におっしゃっていただければなと思います。

D委員：

直接福祉課の方に言えばいいですかね。

事務局：

この場でもいいですし、後からでも。

議長：

はい、皆さん後からでもいいそうですので。D委員の方はこの課題のところで何か訂正したりとか、ご意見というのはどうですか。

D委員：

そうですね、今ちょっと読んでみますね。

議長：

そうしましたら、お時間もありますので、また次回の委員会でもいいので、お願いいたします。その他どうでしょうか。前回参加していただいたのでおわかりだと思うんですけども、皆さんからご意見いただきたいなというところがございますので、G委員なんかは、もし、感想でもなんでもいいので、あればよろしく願いいたします。

G委員：

皆さんと同じで、僕もよくできているなという感想と、あとグラフとか図とか本当に見やすく、すらすら確認させていただきました。印西に対しては事業所が少ないなという印象が、あまりちょっとそんな感覚は持っていなかったの、ああそうなんだっていう印象を受けたのと、16ページの近隣市の比較のところ、自分のところは八千代市さんから利用の相談を受けることが多くて、どちらかというと八千代市さんの情報ってどうなのかなっていうのがちょっと気になりました。後は、知的障がいの方と、身体の方と、児発放デイの医ケアの方も事業として進めているので、もうちょっと頑張らなきゃいけないのかなという印象は受けたのと、より違う事業所が運営していけるのであれば、お互いに連携を組みながらやっていけるので、特に医ケアのところって看護師さんが急に辞めちゃうとかそういったときに代わりに診てもらえないと利用者さんも困ってしまうので、そういった課題みた

いなものを感じました。以上です。

議長：

はい、ありがとうございます。事業所間の連携というようなお話があったと思いますので、そのあたりも各論の方で良いテーマかなというように思いますので、ぜひ次回以降の委員会の方で煮詰めていけたらいいのではないかなと思いました。どうでしょう。H委員とか、もし何かあればご発言をお願いいたします。

H委員：

副市長のご提案があつてついでということで、一般の方たちも最初から取り掛かり、きっかけづくりってところで、印西市の状況がどういったところかなってというのが、まずそこから知れるってところが分かりやすくなっているところなのかなと思いました。これは 今後どういった展開するかよくわからないんですけど、せっかく良い資料を作っても、その一般の方に広く目に触れる機会がやっぱりないと、その現状を知っていただくっていうところが一部のところでとどまってしまうと意味がなくなってしまうので、こういった資料を状況、あと今後の課題なども含めて、せっかく良い資料を作っていくので、その辺は一般の障がいの方に触れる機会が少ない方たちも一定数いらっしゃるんで、そういった方の目に触れるようなところで展開していくのも大事なかなというように思いました。

事業所が少ないという話が出ているんですが、看護師として、印西市って市としては若いから、他の近隣市に比べると歴史的に、そういったところの福祉に関する関わりがまだ浅いのかなっていうことを勝手に思ってしまったので、こういう状況なのかなっていう解釈をしてしまったんですが、それはあんまり関係ないのかなって、今ちょっと見てて思いました。

印西市内の中に地域差というのを感じるので、例えばニュータウン地域だとそういった事業所が多かったりとか、逆に木下地区だとちょっと少ないとか、そういう地域格差を減らしていく手段、そういう課題感を持っていただけたらいいのかなというように思いました。はい、以上です。

議長：

はい、すごく貴重な意見だったと思いますので、またこのあたりも含めて事務局の方で、次回以降、よろしく願いいたします。ありがとうございます。A委員お願いいたします。

A委員：

現状の課題の課題に精神障がい者のことが特に載っていないという印象を受けておりまして、引きこもりという言葉は入っておりますが、おそらく 市の中にある事業所とかで精神に関わっているところが少ないと、やっぱりその現状をお伝えする機会というのは少なかったり、印西の特徴として、いんば学舎さんがやっぱり大きいところとしてあると思うので、そこを利用されている方のイメージの障がいの方がよく上がってくるのかなとか、これは想像ですけど、精神の方があまりいないと思うんですね。成田なんかは精神科病院が5つもありますので、精神のことを言う方がたくさんいらっしゃるんで、課題としても多く上がってくるんですけども、4 ページの一番下の方に、印西市総合計画、印西市地域福祉計画の中に、いのち支えあういんざい自殺対策計画というのも入っておりますが、そういう中で、例えば精神の方が自殺など、そういうことにならないための計画とか、そういう課題ってこういうところでも出てるんじゃないかなと思うので、このアンケートだけでは拾えなかったような、他のこういう

計画とか、そういうところからもちよっと見ていただいて、精神の部分もなければいいんですけど、もし課題があるようであれば、取り上げていただきたいなと思いました。以上です。

議長：

貴重なご意見ありがとうございます。前回ですかね、前回の時も福祉サービスにつながっていないような、相談とかにもつながっていないような方たちをどう掘り起こすとか、探していくのかっていうような課題の話もちよっとあったりして、確かE委員のところで行っているワーク・ライフサポートセンターなんかが中心となって、そのあたり今やっているということと、あとは前回でも、地域福祉計画なんかも、やっぱり連動していかないと、なかなかそのあたりは難しいよね、みたいなお話があったと思います。精神障がいをお持ちの方に関しては、やはり絶対数が多いですので、そのあたりも課題としてしっかりと取り組めていけたらいいかなというように思いますので、事務局の方でも検討していただいて、次回以降よろしく願いいたします。D委員お願いします。

D委員：

福祉の枠からちょっと出るんですけど、印西って交通がすごく不便なんです。車がある人はどこでも行けるんですけど、福祉を利用する方って、必ずしも車を運転できる方ばかりではないので、福祉の枠の中ではないかもしれないけど、交通手段をしっかり印西市として確保していくっていうところにも、福祉課としてちょっとう切り込んでいていただけるといいなという希望があります。あとこの課題のところに先ほども皆さんの中からお話が出ているように、必要な事業所が増えていくような施策を入れていただくとか、A委員のおっしゃったような精神障がいの方の受け皿ができるような施策も入れていただければと思います。

議長：

はい、ありがとうございます。D委員のお話から、交通弱者とか、地域格差の中での、交通のところというのは、障がいをお持ちの方だけではなく、高齢者であったり、いわゆる交通弱者と言われる方は、市全体の課題にはなっているのかなというように思いますので、そのあたりの視点を打ちながら、今後、各論のところでお話を詰められたらいいかなというように思います。

ちょっと私から見て10ページのところの、日本語のところなんですけど、障がいの人っていうのがありまして、自閉症やアスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害っていう文言があるんですけど、現状ですと、アスペルガー症候群っていうのはあまり使わないで、まとめて自閉スペクトラムなんっていう感じでASDなんて言いますが、そのような形の方がいいのかなっていうのと、注意欠陥っていうのを今、欠如っていうので統一されていると思います。障がいも注意欠如多動症とか言っているんで、そのあたり、現在の表記とか、言い回しに合わせた形の方がよりいいのかなというように思いましたじゃあ、最後にとか何かございましたら、よろしく願いいたします。

I委員：

いろいろ資料の方はかなり素晴らしいものだなと思っております。自分も印西市に、ちょうどイチロー選手がメジャーに行った年に、事業所を作りました。ニュータウンの中でやらせていただいたんですけど、個人で機材から何から全部入れて、1億3000万とか1億4000万くらいかかって、あともうちょっとで、払い切っては終わるんですけど、やっぱり人生で途中、がんになって10年仕事できなかった

たりとか、それでスタッフもなかなか来なかったりで、なんとか回して来たんですけども、逆に、こういう大きい施設だと、場所、土地もかかるし、施設もかかるし、人材もかかるんで、やっぱりお金という原資がかなり重い負担になると思いますので、逆に言うと増えない最大の理由は、行政の補助金とかそういうものっていうのもあると思うんです。

そういう大きい施設を作るのであれば、それなりの土地を優遇してもらおうとか、あと自分で思ったのは、個人の診療所でも患者さんが来るための駐車場を5台分最低確保しなきゃいけないとか、そういう条件になるので、予定していた資金よりは相当かかった記憶があります。ニュータウンの中で作ったりすると、建ぺい率とかが一般住宅と同じで、建物を大きく作るとか、そういうことができない規制とかも結構あったりしたんで、やっぱりそういう縛りを行政がもう少し解除していただかないと、事業をやるという方たちがいても、この印西市に来て手を出しづらいんだろなっていうのと、僕なんかはあの国金（国民生活金融公庫）とかも行っただんですけども、国金の受付とかは基本的に、お前何しに来たのみたいな対応を最初されるんです。そこで門前払いするような形でやったりしてるところもあって、なかなか融資を得られなかったりとかしていたので、もし印西市の行政の方でも銀行の融資を少し指導して協力してもらえるようにとか、そういう枠を広げてもらえれば、多分もう少し入ってくれる事業所さんはあるのではないかなと今思っております。

後は人材なんですけど、大きい事業所さんにしたら、郊外とかになると、先ほど言ったように自動車で職員の方たちが来るから、その分、駐車場も数を取らなきゃいけないとかいうと、多分普通よりも2倍から4倍くらいの予算を取らなきゃいけないような形になってしまうのであれば、この印西市でやろうとするとかなり負荷になるんじゃないかと思っております。

議長：

どうもありがとうございました。ちょっと事務局の方でも、いろいろと今後のところで検討していただけたらいいかなと思います。はい、B委員、お願いします。

B委員：

すいません、次回以降、各論に入っていくということだったので、これを見た方がいいんじゃないかなって思ったことを意見としてお伝えさせていただきたいなと思ひまして。皆さん何名かおっしゃっていたような、ずっとこのプランが変わっていないみたいなのところに関しては、ぜひ前回から何が変わっているのか、すべてのプランを比較すれば理解できるのかもしれないですけど、その旧プランと今回のプラン、そこまで読み込める方、市民には少ないと思いますので、何かそういったサマリーというような内容で、何を変更点として据えているのかみたいなのところが示されているとより良いのかなというふうに思ったのと、アンケートであつたりとか、市がお持ちのデータで現状というのはすごくよくわかったんですが、例えば、自分亡き後に障がいを持った子どもがどうなるのかっていうのは、ちょっと未来の視点だと思ひていて、そういう点では、今の人口における障がい者の割合の方が、流入とか転出とか死亡とか出産とかを加味した上で10年後にどうなっていそうなのかみたいなのところが示されていると、このプランを3か年利用するものになりますので、将来を見据えて作られたプランとしての妥当性みたいなものがわかるんじゃないかなと思ひました。

やっぱりビジネスとかでも、先を見据えてどうなっているのか予測を立てて対策を決めていくということになりますので、人口の推移だつたりとか、その割合みたいなのが見られると、それこそ親がいなくなつて一人で生きていかなくてはいけない障がい者の方が10年後にどのぐらい増えるのか、ちょ

っと私は今パッとこの手元のデータだけではイメージがつかないので、そうしたところが見えるとより、その重要性っていうのもデータごとに議論ができるのかなと思いました。

議長：

はい、ありがとうございます。現行の計画と今の議論している計画の変更点っていうのがわかりやすくなると、住民の方、市民の方もわかりやすいですし、議論としてもやりやすいかなというようにお話と、あとは中長期的にどういう状況になっていくのかみたいなのところがあると、より検討しやすいかなというようにお話がございました。そのあたりは事務局の方でも検討していただいて、可能であれば次回の時に資料として出せるといいかなというようにところです。

時間もちょうど一時間ちょっとというところになりましたので、総論としては、この委員会としては、大枠というか、非常にわかりやすく、そしてコンサル入れてない中で、事務局の方がすごくご尽力していただいて、印西らしい、市民にも分かりやすいものになっているかなというようにお話でよろしかったですかね。ありがとうございます。

次回以降に関しては各論に入っていきますので、今日出た変更点とか、中身はもし可能であれば修正していただいて、次回以降の委員会の方でまたお示ししていただけると、より各論、深い議論ができるかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、議題を終了いたします。ご協力ありがとうございました。進行を事務局の方にお返しいたします。

3. 閉会

事務局：

長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。会議の中でもありましたが、新たな課題とか新しいアイデアがまた出てきましたら、その都度事務局の方にご連絡いただけたらと思います。それでは以上をもちまして、第2回印西市障害者プラン策定委員会を終了させていただきます。

令和8年7月16日に開催された、第2回印西市障がい者プラン策定委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

署名委員	<u>齋藤 武人</u>
署名委員	<u>武藤 恵美</u>